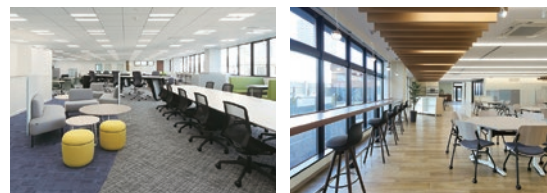


施設の取組み



本社南館 新社屋が完成！

2022年9月に無事竣工を迎え、新しいオフィスで業務が開始されました。4層の新しいオフィスは、働きやすい環境を整備し、単に働きやすいだけでなく、ワークスタイルの変革とコミュニケーションを活性化させるための働き方の発信拠点とすることを目的に、新しい生活様式におけるオフィスの在り方を追及しています。そのためのオフィス機能のコンセプトとして、以下のような具体的なフォーカスをもって、設計されています。

- 企業理念や価値観の共有ができる場所
- コミュニケーションの促進・信頼関係の構築ができる場所
- 知的生産性が向上できる場所
- 仕事に集中できる場所

環境評価への対応

施設としての環境性能の向上にも取り組んでいます。その結果として、建築物の省エネルギー性能の評価であるBELS※1の最高評価の5つ星ランクの評価を受けています。



※1 建築物の省エネルギー性能表示制度の略称で、エネルギー消費量に基づいて、評価機関が5段階で評価し、省エネルギー性能を表示する制度

省エネルギーに対応

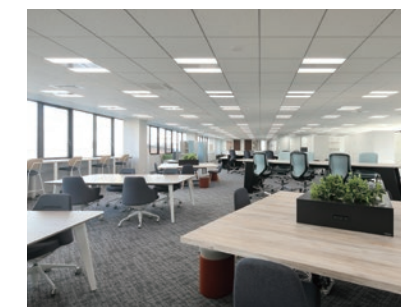
★外壁は高断熱材を使用

建物の外皮性能を上げ、建物から逃げる熱量を抑えた省エネルギー建築物です。外壁は「断熱パネル」を、ガラス部は「Low-Eペアガラス」を採用しています。



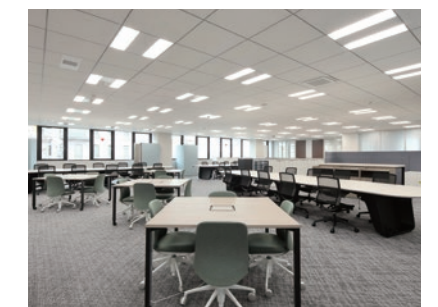
★執務エリアでの照明調光自動制御機能

省エネルギー効果の向上のために、オフィスの執務エリアでは、LED照明の調光が自動制御される仕組みを導入しています。室内の明るさを一定に保ち、自動制御で最適な照度を維持します。



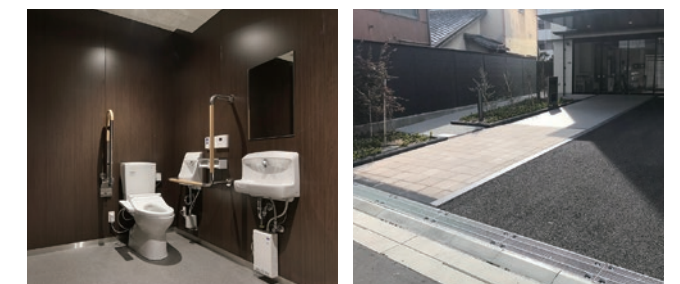
★調湿外気処理機の設置

各フロアに調湿外気処理機を設置することで、外気を快適な湿度に整えて室内に循環させて、快適性を持続させます。



職場のバリアフリー化の徹底

仕事の内容や目的に合わせて、場所を選択して働くことを可能にするワークプレイスとしてABW (Activity Based Working)※2のコンセプトを取り入れた設計がされており、その視点からも様々な活動シーンでのバリアフリーを徹底しています。



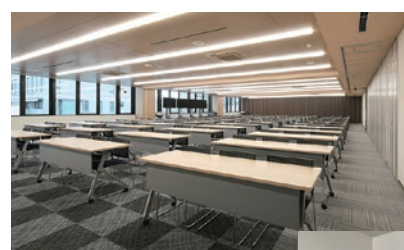
※2 社員が自律的に業務内容や気分に合わせて、時間と場所を自由に選択するという働き方

太陽光発電システムの最適活用

太陽光発電設備の特徴は、緊急時における本社機能維持を視野に、当社の経験を取り入れた最適施設を設置しています。発電システムは、平常時と緊急時での運用について、昼間と夜間をそれぞれ想定して構築がされており、設計時点では動力と電力の各系統に対し、48枚ずつのソーラーパネルが設置されています。

平常時の昼間は太陽光の電力を負荷に供給し、余った電力を蓄電池に充電しています。夜間は蓄電池の電力を負荷に供給し、足りない電力は電力会社から購入しています。

停電時の昼間は太陽光の電力を特定回路に供給し、余った電力は蓄電池に充電しています。太陽光の電力が不足する場合は、蓄電池の電力で補って特定回路に供給をします。また、災害対応などで通常の電力供給が困難な状況に対応するために、必要な外部の発電機の電力を館内に容易に供給接続するようになっています。



EV車への対応

★電気自動車充電対応駐車場装置の設置

電気自動車充電対応の駐車装置は、立体駐車装置内で安全かつ快適に電気自動車の充電が可能なシステムです。

